



4月25日学園創立記念日 特集号

森村学園は1910年4月25日に創立しました。今年で112周年を迎えます。創立者森村市左衛門翁については、どの学年も中等部1年生で『市左衛門研究』をしています。110期生も2,3学期の道徳の時間を何度か利用して、調べ学習とグループ学習を行い、3学期には発表会をする予定です。みなさんもこの機会に森村学園について深く知ることができます。



上の写真は、正門を入った所にある、市左衛門翁の胸像と、校訓「正直・親切・勤勉」の碑です。まだよく見たことがないという人は、今日の下校時か明日の登校時に、近くで見てください。

今回の学年通信では、校訓の1つの『親切』について、紹介します。

市左衛門翁は、『親切』について次のように言っています。

人格の修養などと言って、いきなりお釈迦様や孔子様の真似をしようと思っても、我々にはなかなか難しい。我々にとって一番早い話はお互いに親切であること、これが最上の人格であると心得て大きな間違いはない。

そして市左衛門翁は『親切』について、具体的に次のような例を挙げています。

「舶来品(※外国製品のこと)は何となく親切にできている、ジャパン製はどうも不親切であるなどと言われることがないように、品物に親切を込めてつくりたい。仕事に対して愛情をもって働きたい。事業はこれによって栄え、われわれの栄光もこれによって進むことができる。」

今“MADE IN JAPAN”というと、世界中の人が「性能が良い」「高品質」のような良いイメージを持つことが多いのではないのでしょうか。しかし、かつての日本製品のイメージは、「安かろう、悪かろう」という時代がありました。市左衛門翁は、人が使いやすい品物を作れば、それは必ず売れるはずと信じ、それを追求しました。使いやすいものを作るということは、「使う人がどう感じるかを考えて、使って喜んでくれるものを作る」ということです。

一般的に親切とは、「相手の立場になって考えて、喜んでもらえることをする」ことです。人に親切にしてもらおうとうれし、温かい気持ちになります。そして、親切にされた経験を持つ人は、機会があれば他の人に親切にしてあげたいという気持ちを持っていると思います。このように親切があふれていくと、世の中は住みやすくなっていくのではないのでしょうか。

一方で私たちは、「人に〇〇をしてあげたのだから、感謝されるはず。」とってしまうことも、時にはあるかもしれません。そして相手がそうしてくれなかった場合は、「せっかく〇〇をしてあげたのに・・・」というマイナスの気持ちがこみ上げて来ることもあります。

先ほど挙げた具体例では「**品物に親切を込めてつくりたい。仕事に対して愛情をもって働きたい。事業はこれによって栄え、われわれの栄光もこれによって進むことができる。**」とありました。親切な気持ちや行為は、回り回って自分に戻ってくるということでしょう。「自分がした親切は、いずれどこかで返ってくる。自分がしてもらった親切は、いずれどこかで返していくべきものだろう。」と考えてみてはどうでしょうか。

市左衛門翁のように親切な気持ちで商品を作ることも、困っている人を助けることでも、ボランティアをしてみるのでもよいです。自分は何で社会に貢献できるかな？と考えるだけでも構いません。『親切』な気持ちを持ち、行動力のある人になりましょう。

なぜなら君達は、“世の中の役に立つ人を育てたい”と112年前に森村市左衛門翁が創立した『森村学園』の生徒ですから。

今日配った創立記念日の記念品は、『正直』『親切』『勤勉』の焼き印が入った、とても美味しいおまんじゅうです。よくあるお祝いの紅白まんじゅうは赤白2つですが、このお祝いのおまんじゅうは、なんとおまんじゅうが3つ入っています。例年は創立記念日の前日に配っているのですが、今年は前日が日曜日で、前々日は初等部と幼稚園が休みの土曜日なので、3日前の金曜日に配ることになりました。大切に持って帰って、ご家族の皆様と分け合って食べてください。消費期間が短いのでお早めに。

さて、あなたは『正直』『親切』『勤勉』のどのおまんじゅうを食べますか？